

◇ 医療・看護・介護・福祉の役立つ情報、元気が出る！医労連のホームページをご覧ください

愛知県医労連14春闘速報11

発行 2014年5月16日 愛知県医労連・西尾書記長
連絡先 〒456-0006 名古屋市熱田区沢下町9-3労働会館本館403
TEL052-883-6955 FAX052-883-6956 E-mail irouren@roren.net

5月12日 看護の日 5時間白衣のロングラン宣伝



5月12日看護の日に栄広場で5時間ロングラン宣伝を元気に行う参加者

5月12日はナイチンゲールが生まれた日。「看護の日」と制定されています。

愛知県医労連は3月、4月2回のナースウェブに続き、「看護の日」の5月12日をアピール行動の日と位置付け、栄広場にて午前11時～午後4時までの5時間白衣のロングラン宣伝を行いました。

安全・安心の医療・看護、愛のある看護が提供できるよう、看護師大幅増員、夜勤の改善など勤務環境の改善と、健康への関心を高めるアピール行動となりました。血压測定・体組成計の健康相談も大好評でした。

行動はマスコミも注目し、CBCテレビ、読売新聞、しんぶん赤旗からの取材・報道がありました。CBCテレビイッポウは早くから来て5名体制で念入りに取材をしました。赤旗も準備段階から行動最後まで密着しました。



リレートークは幸島副委員長がよく通る声で大半を訴え、リレートークも切れ目なく次々に行いました。「看護の日です。看護師ふやせの署名をお願いします」の声掛けに、通行人の反応はよく311筆の署名が集まりました。横断幕、ポテッカーなど色鮮

やかで人目を引きました。着ぐるみも大好評で、手を振ってエールを送る人がたくさんいて、5時間のロングランもあっという間に感じられる楽しい行動で、愛労連榎松議長、社保協小松事務局長・西村事務局長も応援宣伝に駆けつけて下さいました。



参加組合＝全医労豊橋 1、全医労地区 2、全労災旭 1、南 3、みなと 2、名南会 1、尾張 1、南知多 2、協会 1、書記局 3名、応援 3名



(中部日本放送[イッポウ])

きょうは看護の日・看てもらえない日があるかも

5月12日は英国の看護師・ナイチンゲールにちなんだ看護の日。名古屋市立大学病院(瑞穂区)では毎年この日に無料の健康相談を開いている。名古屋市立大学病院・平岡翠看護部長は「人が生きていく上で大事な気持ちと体が健康でいる、それを大切に思ってもらえる、看護はそのお手伝い」とコメント。

医労連は看護師の増員を求める請願書を提出しようと署名活動を行った。厚生労働省によると患者の高齢化や重症化で、今全国で看護師が3万人不足している。愛知県医労連のアンケートによると、76%の看護職員が仕事を辞めたいと回答した。

愛知県医労連・西尾美沙子書記長は「高度医療、認知症の患者が“一緒くた”になっているので患者にかかわれていない」とコメント。

フローレンスナイチンゲール(日本赤十字社HPより)、名古屋・中区の映像。



参加されたみなさんお疲れ様でした



↑CBC イッポウ柳沢アナウンサーから取材を受けました。おキレイな方でした♪

↑柳沢アナCBC HPより



西尾美沙子書記長（左）らの訴えに応え署名する男性（右）＝12日、名古屋市中区

7割が慢性疲労・不払い労働訴え 愛知県医労連が宣伝

調査は2009年以來で日本医労連の全国調査の一環として昨年9月～11月に行われました。前回に比べ「慢性疲労」は2・8割増の70・6％、「仕事量が増えた」も6割増え63・2％となり、人手不足を訴える声が多く

ありました。「不払い労働がある」は71・8％にもなりました。職場改善はまったなしです。「3交代での夜勤は月8回までなのに、10回以上させられている」と訴えている看護師は1割もいます。もうろうとなることもあり、安全・安心の医療への障害になっています」との訴えに

看護師増やして

引き返して署名する人も。一身上に看護師がいて体調を壊し辞めようかと言っていたので、「人の役に立つ仕事をしたい。介護は選択肢の一つ。条件をよくしてほしい」と語り、介護系に就職希望の男子学生(21)は「資料を見て勉強したい」と署名していました。

護学校教員の女性(30)はインターネットで行動を知り駆けつけました。「教えてもたくさんの方が辞めるのは悲しい」と参加者と話しこんでいました。母がヘルパーで呼び出されることも多く、子どもも頃よく夕食をつくったという女性(18)は「人の役に立つ仕事をしたい。介護は選択肢の一つ。条件をよくしてほしい」と語り、介護系に就職希望の男子学生(21)は「資料を見て勉強したい」と署名していました。

女性看護師 やめないで

ウォッチ

院内保育所の設置や復職研修の実施で、女性が産後後も看護師を続けられるよう、県内の病院で、女性の看護師の離職を防ぎ、復職を支援する動きが本格化している。(吉宮萌子)

県内の病院 復職支援

日本看護協会の調査によると、2012年度の県内の常勤看護師の離職率は12・2%と、全国平均11・0%を上回った。県医務国保課は、結婚や出産などを契機に退職する人は年間7000人超と推定、今年は一587人の看護職員が不足すると見込んでいる。

県がんセンター中央病院(名古屋千種区)は4月、県立病院では初めてとなる院内保育所「キッズルームバンビ」を開所した。日の光が窓から差し込み、壁にはクマなどの絵が張られた部屋で、保育士と乳幼児が笑顔で遊ぶ。

平道朱里ちゃん(1歳6か月)は同病院の看護師、平道愛さん(34)の育休明けに伴い、4月1日から入所。平

保育所開設／勤務体制を整備



県がんセンター中央病院で開所した保育所

道さんは瀬戸市の保育所に預けていた長男(5)が発病時にすぐに駆けつけられなかった経験から、入所を決めた。「昼食もアレルギー対応をしてもらえ、病気になるのがちの幼い時期に、すぐ駆けつけられる安心感を持って仕事ができる」とは大きい」と話す。

日進市の愛知国際病院では、2007年から就学時までの保育手当に加えて、子どもの発病にも気兼ねなく休めるように人員に余裕ある体制を敷き、有給の看護休暇を設定。夜勤は軽減も認める一方で、夜勤希望者には夜勤支援手当も付けている。

医療や介護施設などの労働者でつくる県医療介護福祉労働組合連合会は「看護の日」の12日、名古屋市中区の栄広場で、看護師や介護職員の増員や看護師の長時間労働の改善などを訴える署名活動を行った。

労働環境改善訴え

白衣姿の看護師ら約20人が通行人に、厳しい労働実感を訴え、夜勤を含む労働時間を週32時間以内にするなど、国会に求める署名への協力を求めている。また、血圧や体脂肪率の測定や、健康に暮らすための助言も行った。

西尾美沙子書記長(43)は「過酷な夜勤や過密労働で、70%以上の看護師が慢性疲労を感じている。看護師が働き続けられるように、夜勤の労働環境の改善と看護師の大幅増員が必要だ」と話していた。



看護師による血圧測定なども行われた

高井望事務部長は「看護師確保に頭を痛めた時、働きたい状況の整備を考えた。今は新規採用でも復職でも優秀な人が集まって来る」と話す。

県によると、昨年4月現在、県内の325病院のうち、保育所があるのは約100。県がんセンターの保育所の利用状況を検証し、残る三つの県立病院にも広げたい考えだ。

また、過去10年間で550人超の復職を後押ししたが、県看護研修センターと話す。

(名古屋千種区)などで無料で行う復職研修「カムバック研修」だ。「プランクが大きい」「機械の変化についていけないか不安」などの復職をためらう理由を分析し、注射などの基本から最新の医療技術までを一通り学ぶ内容にした。これまで1170人が受講した。講義を担当した看護師は「基本を再確認し、今の医療看護の知識・技術を伝え、強い不安を自信に変えてもらうように心がける」と話す。